

＝市民の声募集中＝

市政に思う

今回も4名の方に市民の声をお願いしました。皆様お忙しい中、御協力感謝いたします。現在市民の声を募集しています。お問い合わせは広報委員会まで。

議会広報特別委員会 ☎42-6310

市民の声

市には  
なつたけれど

江田島焼 沖山工房  
沖山 努



皆さんご存知の通り江田島市は、平成の大合併によって6年前に近隣の4町が合併して誕生した新しい市でございます。市と言うと町よりは聞こえは良いのですが、2005年当時、合併特例法のお陰で市になる人口の条件が3万人以上に緩和され、ぎりぎりそれをクリアできた人口もこの6年で約4千人も減り、今や2万7千人になっております。この小さな市で毎年600

人以上も減るといふ急速な過疎化は、すでに江田島市は異常事態に陥っていると言つても過言ではありません。しかも若者の島離れは著しく、税金を納める若者が減るので、すから当然残った市民の払う保険料も割高になるし、福祉施設も新設できないわけでございます。市民へのサービスを充実させるにはお金がかかります。人口がどんどん減るといふことは、税収が減るといふことなのです。

で、市民へのサービスも増やすことはできません。しかも江田島市には、今までの積もりに積もった307億円という莫大な借金もあるのです。この現状を考えれば、今あるサービスに感謝しなければと思いません。現在、市政を司っている方々も毎日、さぞ頭の痛い思いをされているとお察し致します。では私には何ができるのか。私はこれまで通り、何処に行つても江田島を

自慢し続けていこうと思いません。誰に会つても江田島は良い所ですよと褒めまくっています。そこに住んでいる人が悪く言う場所に引越したいと思う人は、誰もいませんから……。

業になればと考えるこの頃です。

INGEN  
想ひごと

能美町 砂堀 正治



3月11日に発生した東日本大震災は、死者・行方不明者2万人を超えるという戦後最大の大災害をもたらしました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に對しまして、心よりお見舞い申し上げます。報道等で見る現状は、そこで生活していた地域の活力や風光明媚な景観が跡形もなくなるといふ凄まじい惨状でした。さらに、住みなれた所を離

れ避難所生活を余儀なくされている多くの方の心痛はいかばかりかと思ひます。一日も早い復興をお祈りします。今回の大震災は、自分の住んでいる能美島について、改めて考えさせられる機会を与えて頂いたものと考えます。昨年実施されました国勢調査によりますと、江田島市の人口は前回調査3万人弱から3千人近く減少しています。他の市町でも人口は減少しているのですが、江田島は減

少率が高いのです。ここで生まれて育つた自分には、住みやすいところとこれまで思つていましたし今でもそう思ひます。なぜ人口が減るのでしょうか。一つの要因として考えられるのが、若者の地域離れではないでしょうか。若年人口の減少は地域社会や経済を停滞させます。行財政の負担軽減から生活交通の合理化はやむを得ないところもありますが、今少し若者が通勤・通学しやすい交通事



明るく楽しい  
島暮らし

能美町 山岡 智美



私は、能美町で生まれ能美町で育ち、現在、二児の母として子育て真っ最中です。毎日、子供や子供をとりまく色々な人達に助けられています。夫婦共働きが当たり前の社会で、子供達のために活動されている、先輩ママのパワーには、いつも頭が下がります。私は、牡蠣屋に嫁ぎ10年目になります。江田島特産の牡蠣を、身近に感じてもらうために、家族ではじめたカキ打ち体験には、毎年、若い人や、

大学生、家族連れなど、たくさんの方が来られます。「空気もおいしいし、貴重な体験ができて、楽しかった。」江田島市には、都会にはない魅力がたくさんあると思ひます。田舎暮らしですが、ちょっとしたブームですが、そんな人たちのために、江田島市の、身近な生活事情や、自然あふれる江田島市の良いところを、

もっと具体的に発信し、活気のある街づくりをして頂きたいなと思ひます。少子高齢化の波に押し流れている今、子供たちが大きくなつた時、誇りを持って住みたいと思ひえるように、「目指すものは、明るく、楽しく、自然を愛する島暮らし」まず、私が、楽しんでいけたらいいなと思ひます。



今感じていること

大柿町 石田 美希



私が江田島市に嫁いで来て、早いもので一年が経ちました。広島に住んでいた頃は、残業や出張が頻繁にあり忙しい毎日を送っていましたが、休日には外食や買い物、映画鑑賞や野球観戦と遊びには事欠かない生活をしていました。江田島にはそういった娯楽はほとんどありませんし、引越す前は知り合いいない土地で不安だらけでした。しかし今では、海、山や温泉などの

恵まれた自然環境、牡蠣などの魚介類をはじめとした美味しい食べ物、人情味あふれる人達とのふれあいを通じて、この土地に住めることの幸せを感じるようになりました。今年の2月に夫婦で柿浦にお惣菜屋をオープンしてから、さらに江田島の方の温かさ、地域の結びつきを感じるようになりました。「二人で始めたん？」、「若いのに偉いね」と気さくに話し掛けて下さる方、採れたての

野菜や魚を「いっぱい採れたけん食べて」、「店の料理に使いんさい」と分けて下さる方、「友達に宣伝しとつてあげる」と応援して下さる近所の方、広島だつたら出会うことのない方々、江田島に来て本当に良かったと思ひています。しかし一方では、産業の衰退、交通網の減少、学校の閉校、病院不足など、様々な要因によって住みにくい地域になりつ

つあるもの事実です。これからも魅力溢れる江田島市であり続けるために、もっと私達のような若い人達が町興しに参加できる仕組みづくりが必要だと感じています。